2011 年 7 月 18 日・ホータン事件

2011 年 7 月 18 日、東トルキスタン（いわゆる中国の新疆ウイグル自治区）のホータンで、平和的なデモを行ったウイグル人 20 名が殺害された。中国当局はこれまでの事件と同様に、ウイグル人側の「分離主義者、宗教過激主義者、テロリスト」によるテロ行為であると発表するが、これまでと同様、事実とはかけ離れたものであると見られる。

中国政府は漢人に対しても冷酷な対応を取り、証拠を隠滅し、都合の良い公式発表をすることは、89 年天安門事件や、今年起きた中国高速鉄道衝突事件を見れば一目瞭然である。「少数民族」への対応はなおさらであろう。

中国の政府公式発表が事実であるなら、そもそも現地の情報を厳しく制限する必要はなく、海外の、国際的な調査団による現地調査を許可すべきである。

事件の概要

7 月 18 日(月)昼ごろに東トルキスタンのホータンで数名の死傷者が出たとの報道がされた。同日夜には、中国国営メディアである新華社通信より、事件についての報道がなされ、「暴徒」が警察の派出所を襲撃して人質をとって立てこもった上、放火した。警官隊と武装警察が出動し、抵抗する暴徒数人を射殺し、人質６人を救出したが、武装警察官や人質ら計４人が死亡し、１人が重傷を負った。警察は同日午後１時半までに現場を制圧した。(*1 とされた。

これに対し、世界ウイグル会議は 19 日に緊急の発表を行い、目撃者情報などを元に、ホータンで起きた事件はウイグル人による警察署襲撃事件などではなく、平和的なデモが武装警察に鎮圧されたものであるとした。

デモが起きた場所は、ホータンの主要バザール近隣のヌルバグ地域であり、100 人以上のウイグル人が集まったとみられる。デモ参加者は、ホータンでこの二週間のうちに課された弾圧に抗議する為であり、警察の拘束で不明となっている親戚縁者の消息を知ることを要求した。

しかし、警察はデモ参加者に発砲を始め、20 人を殺害した。ホータンのある病院から得た情報によると他に 12 人が重傷である、その中には 4 人の女性と Hanzohre という名の 11 歳の少女もいた。加えて 70 人以上の人が逮捕された。(*2

この世界ウイグル会議からの発表の次の日 20 日に、中国の政府側の発表が変わり、当初の死者は人質と警察官側の 4 人とだけ発表していたものが、これに「犯行グループ側」のウイグル人の 14 人を加えた。更に世界ウイグル会議側の声明に過敏に反応し、これを否定するとともに、ホータンの事件は、ウイグル人の宗教過激派による犯行であると発表した。

新華社通信によると、犯人グループの１４人が射殺され、さらに市民や警察官ら４人が死亡した。警察によると、犯行グループは２０歳代から４０歳代の男で、現場で「アラーは唯一の神だ」と叫んでいたという。(*3

また、ホータン市公安局はメディア取材に対し、「放火、爆発、殺人を引き起こした重大な暴力テロ事件だ」と表明した。同公安は、武装警察などとともに同テロによる連鎖反応が起きないよう警戒に当たっていると説明した。(*4

しかし、これら中国の公式の発表は、地域への人の出入りの制限と、情報の遮断の元で行われたものであり、何らかの独立した報道機関による独自調査が行われない下でのものであり、政府の都合の良い発表でしかない。

ホータンの道路は中国公安部隊により封鎖され続けており、出入りする人々は管理され、また綿密な検査を受け、そしてホータン市には戒厳令が当局によって敷かれた。この事件に関しての正確な情報を得ることは困難な状況に置かれたのである。また、中国当局は中国内でこれらの事件に関するニュースが広がることを避ける為に、この事件についてのインターネット検索を即時に遮断した。(*5

この中国側の公式発表に対し、世界ウイグル会議のラビア会長からも再反論がなされた。

そもそもホータンで7月18日に何が起こったのかを、世界ウイグル会議をはじめとした域外の者が正確に話すことは不可能であり、それはいかなる独立した報道機関もその地域にはないためである。

そして、もしホータンの警察派出所がウイグル人の集団に襲撃されたのであれば、その襲撃は何年にもわたる中国政府による暴力的な抑圧に由来する、絶望から生じたものである。言論の自由が許されていない現状にあって、中国政府がこの事件を『テロリスト』と呼ぶ権利などない、とこの事件の本質を明言している。(*6

また、ホータンで負傷したウイグル人約70人は、軍刑務所の病院に搬送された。彼らは生きて出らることはなく、おそらくこれまでと同様に臓器移植の提供元となるだろうと見られている。(*7

なお、この事件の背景についてはさまざまな情報があげられ、実態がつかめていない。

サウス・チャイナ・モーニング・ポストによると、ホータンではウイグル人女性の伝統衣装着用を禁じる地元政府の政策があり、このことへの不満が引き金だった可能性がある。(*8

また、「暴徒」はカシュガルやアクスなどから来た鬚を生やした、中国語ができないウイグルの若者であったと言われ、さらに「襲撃」されたのは警察ではなく居民委員会の『街道事務所』であるとも言われている。居民委員会は身分証明書、パスポート発行の権限を握っており、さまざまな面で住民に不満を与えていたため、住民側の直接の不満がぶつかるターゲットとなったものとみられている。(*9

2009年7月5日ウルムチ事件

2009年7月5日にも、首府ウルムチで同様の事件が起きている。この事件の1週間前に広東省の玩具工場でウイグル人が殺されたことを当局が適切に対応しなかったことに対して、犯人を逮捕するよう要求するデモが行われた。デモ隊は次第に数を増やし1万人の規模になったといわれる。しかし現地政府はこの平和的なデモ隊に対して無差別発砲し、千人を超えるウイグル人がその場で殺され、1万人以上が拘束されたという。(*10

これに対し、中国側の公式発表は、外部のウイグル人組織がネットによって現地の若者を扇動し、「暴動」が発生、197人が死亡し犠牲者の大部分は漢人であるとした。

しかし国際的人権団体の独自の現地聞き取り調査などでも、中国当局の発表はまったく現実とかけ離れていることがはっきりしている。(*11

このような事件の背景は？

ウルムチ事件のきっかけとなった、この広東省のウイグル人達は、自ら望んで出稼ぎに出たのではなく、強制的に移送された人々である。なぜウイグル人の貧困を、地元での雇用によらずに、沿岸地域に移送させることによって解消しようとするのだろうか。

また東トルキスタンが中国の支配下に入ってから、大量の漢人が入ってきている。60 年前の総人口に占める漢人の割合は 6%に過ぎなかったのが、現在ではほぼ半数を占めるまでに至っている。地元の要職は漢人によって占められ、ウイグル人は大学を卒業しても地元では仕事が出来ないのが現状である。漢人の大量移住とウイグル人の若者の大量移出は、東トルキスタンの同化を目的として行われているとみなされて然るべきであろう。ウイグル人は、東トルキスタンの中ですら、文字通りの少数民族になろうとしている。

また民族の根幹を成す言語や文化、信仰などへの制限も益々強化されている。公教育からのウイグル語の追放は大学から始まり現在では幼稚園から中国語教育が行われている。

児童や学生は宗教活動への参加を禁止され、大学の寮などでは日々の祈りを行っていないかを教師が見回っている。

カシュガル旧市街の町並みなど、民族の歴史的な文化も破壊されている。民族の歴史や文化に関する出版活動も中国政府の意に沿うように制限されている。

地域住民の集まりなども政府の管理下に置かれている。宗教的・地域的つながりを失った若者たちはモラルを失い、さらにさまざまな抑圧や経済的な差別により、ドラッグに溺れてエイズに罹るなど深刻な社会問題を生んでいる。

また、さまよえる湖として有名なロプノールでは、住民が住んでいるすぐそばで核実験が何度も行われており、 数十万人規模の放射能による犠牲者を出している。

このような政府の残酷な政策に異議を唱える者は、「分離主義者」、「テロリスト」などとレッテルを貼られ、まともな手続きも経ずに監獄や強制労働所に送られている。(*12

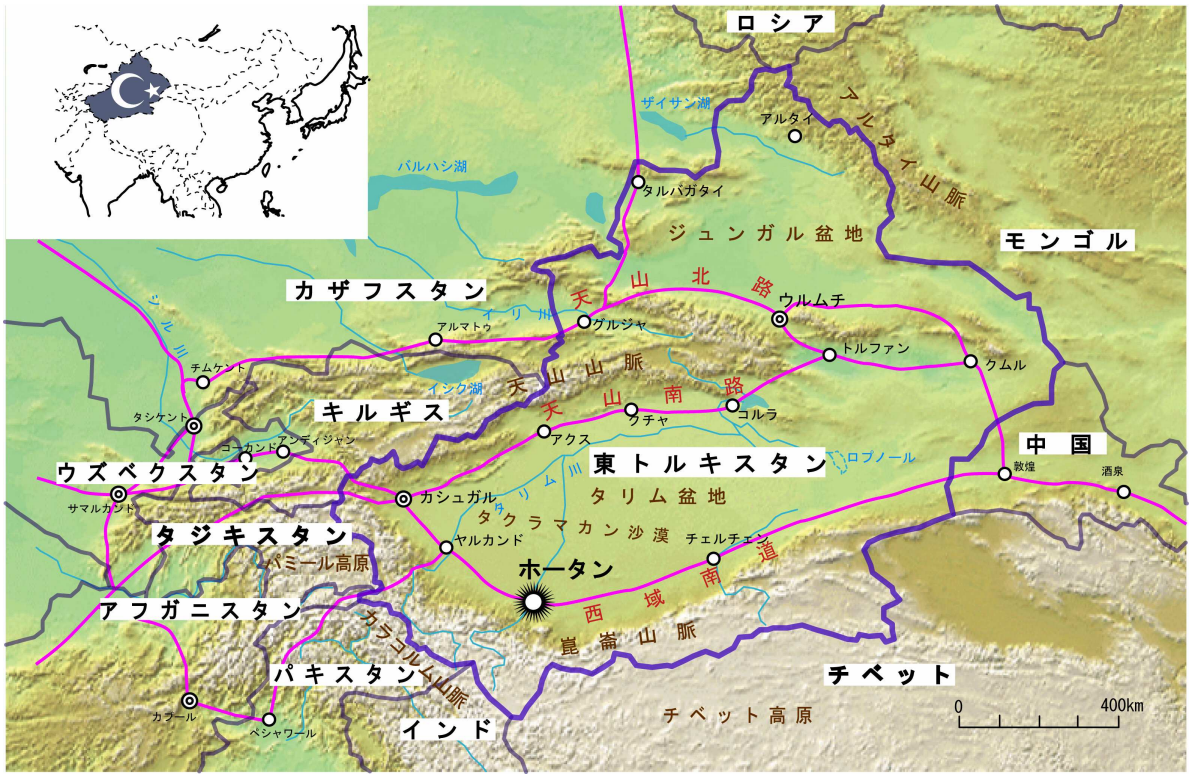
海外メディアの対応

今回のホータン事件について、中国政府の発表が出た直後に世界ウイグル会議から緊急の発表がなされたが、日本を含む各国のメディアはこの世界ウイグル会議側の見解を引用する形で大きく報道された。

ウルムチ事件以降、中国政府の公式発表に信憑性がないこと、ウイグル人達がどのような目に遭っているのか、メディアもその状況を把握してきたことの現れではないだろうか。

とはいえその報道の仕方に満足している訳ではない。今もまだ、日本国内メディアの多くは、民族間の経済的な格差への不満が、事件の背景となった、とする分析が多い。経済的な格差は確かにあるが、それ以上に大きな問題、ひとつの民族がなくなるかもしれない、という危機的状況にあることを、ありのままに語って頂きたいと願っている。

モスクの門の上の通告には、ウイグル語で「以下の者がモスクに入り宗教的な行事に参加することを禁止する。一、共産党員・共産主義青年団員。二、国家職員・労働者・退職者。三、十八歳以下の青少年。四、地方政府・村の役所などの職員。五、女性。」と書かれている。
（世界ウイグル会議 HP より）



ホータンは、タリム盆地の南、チベットへと向かう崑崙山脈の北麓に位置している。砂漠の町とも言われるオアシス都市で、天山南路における要地である。人口は 26 万人（2004 年）。ホータン絨毯やシルク織物、玉石などで有名。

事件後、厳戒態勢にあるホータン市内

ラビア・カーディル総裁のメッセージ ～ホータン事件はテロ攻撃ではない～

私たちはホータンで 7 月 18 日に何が起こったのか正確に話すことはできません。なぜならいかなる独立した報道機関もその地域にはないからです。もしも、ホータンの警察派出所が一団のウイグル人の集団に襲撃されたのであれば、その襲撃は何年にもわたる中国政府による暴力的な抑圧に由来する絶望から生じたものに間違いありません。私、および世界ウイグル会議はあらゆる形での暴力に反対しています。中国政府の残虐性への平和的な抵抗のみが、東トルキスタン問題を解決に向かわせる建設的な道なのです。

私は 2009 年 7 月 5 日の騒乱以後、何度も中国に人々を暴力に訴えることを余儀なくさせることの無いように要請してきました。そしてアメリカ合衆国と欧州連合にウイグル人と中国政府の平和的な対話の手助けを頼んできました。私の要請は黙殺されつづけています。

今日明日中に中国が私の手か、西欧メディアの扇動、あるいは他の知られざる地下グループが襲撃の背後にいると言うであろうことは判っています。

先んじて言いましょう、私は中国が問題の根源を海外かまた架空の地下組織に求めることで自身とその人々の時間を無駄にしないでほしいという要請を繰り返します。

私は彼ら自身の差別的なシステムと抑圧的な政策を見つめ直すように諭します。(*13

注

＊1 読売新聞(2011 年 7 月 18 日)「新疆ウイグル自治区で暴徒が派出所を襲撃」
http://www.yomiuri.co.jp/world/news/20110718-OYT1T00540.htm

＊2 世界ウイグル会議(2011 年 7 月 19 日)「世界ウイグル会議:ホータン事件の複数目撃報告で懸念」
http://www.uyghurcongress.org/jp/?p=3187

＊3 NHK(2011 年 7 月 21 日)「派出所襲撃 ウイグル人組織が反論」
http://www3.nhk.or.jp/news/html/20110721/t10014349091000.html

＊4 新華社通信(2011 年 7 月 21 日)「新疆の派出所襲撃、地元公安「重大なテロ事件」」
http://www.xinhua.jp/socioeconomy/politics_economics_society/278585/

＊5 世界ウイグル会議(2011 年 7 月 19 日) 同上

＊6 世界ウイグル会議(2011 年 7 月 21 日)「ウイグル人指導者:ホータン事件はテロ攻撃ではない」
http://www.uyghurcongress.org/jp/?p=3203

＊7 AFP(2011 年 7 月 25 日) "Uighur leader fears for detainees held in China"
http://news.yahoo.com/uighur-leader-fears-china-detainees-clashes-004319035.html

＊8 朝日新聞(2011 年 7 月 22 日)「新疆の警察襲撃「女性の黒いベール禁止引き金」」
http://www.asahi.com/international/update/0722/TKY201107220556.html

＊9 XINJIANGREVIEW.COM (2011 年 7 月 25 日) "Understanding the Khotan violence in the Local Context: 街道办事处"
http://xinjiangreview.wordpress.com/

＊10 RFA ウイグル語版(2010 年 1 月 30 日)「ウルムチ大虐殺事件、現場で射殺されたウイグル人は 1500 人を超える」
http://www.uyghurcongress.org/jp/?p=1597

＊11「正義、正義を」中国 2009 年 7 月 新疆ウイグル自治区での抗議行動(2010) アムネスティ・インターナショナル報告書(2010)
http://www.amnesty.or.jp/modules/mydownloads/singlefile.php?cid=19&lid=152
"We Are Afraid to Even Look for Them" Human Rights Watch (2009) http://www.hrw.org/ja/news/2009/10/20-5 など

＊12 東トルキスタンで起きている民族問題や人権問題については、世界ウイグル会議 http://www.uyghurcongress.org や日本ウイグル協会 http://uyghur-j.org、東トルキスタンに平和と自由を http://saveeastturk.org などでまとめられている。
ウイグル団体や支援団体以外にも、Human Rights Watch のレポート（例えば Devastating Blows(2005)など）、Amnesty International、Congressional-Executive Commission on China の年間レポート、ヨーロッパ議会、国連人権委員会、RFA など様々なところで扱われている。

＊13 世界ウイグル会議（2011 年 7 月 21 日） 同上